

「美しい門をたたえる岡山教会」

使徒3:1~10

■ 奇跡のストーリー

聖書には、多くの奇跡のストーリーが出てきます。皆さんはその奇跡が本当にあったと信じますか。またその奇跡が私の人生にも起こりえるとか信じますか。例えば、旧約聖書では、イスラエルの民が将来の希望も計画も全くない中で、エジプトから約束の地に向かって出発しました。道のない荒野を進んでいく中で、日々神様が今日必要な食べ物を空から与えてくださいました。まさに奇跡です。そんな奇跡が皆さんの人生に今日も明日も起こるということを信じて期待して生きていますか。私たちの人生は確かに神様の奇跡によって今日も生かされているという告白や分かち合いが日々起こりますように祈ります。

■ 使徒の働き

ペテロとヨハネは、道のない道を進んで来て、将来や人間関係のことで悩み、不満をもち、他人に問題を見るような人でしたが、イエス様に出会って変わりました。イエス様の弟子として3年半生活しましたが、なかなかイエス様の道を進むことはできませんでした。イエス様が十字架の上で死なれ、復活され、天に上げられる中で、彼らは不思議な力を得ます。それは父なる神様の約束、そしてイエス様が何度も弟子たちに父なる神様の約束をあなたが受けなければいけない、その時あなたの人生は道なき道もすすむようになり、神様の御心があなたの人生に起こっていくと彼らに教えました。それは、聖霊という存在でした。その神の霊は、あなたに大切なものを気づかせてくださる、本当によいお方なのです。ペテロとヨハネは、その霊に満たされたときに、確かに変わっていききました。どのように変わっていったのか記録されているのが、この「使徒の働き」です。

■ 生まれつき足の不自由な人

彼らはいつも午後三時に祈りの時間をもっていました。祈りの習慣を一日の時間の中においていました。皆さんの「午後三時」は、しっかり保たれていますか。皆さんの問題がなかなか解決しないのは、私たちの人生を導くその方の声を聴く時間を習慣化していない可能性があるかもしれません。ルーティン化することが大切です。みなさんの人生にペテロとヨハネに起こった今日の「午後三時」の祈りの時間に起こったような神の技が起きたのはいつですか。神様は生きて働かれています。神の御業は、祈りを通して起こります。

ペテロとヨハネは、「美しい門」がある宮に入ろうとしたところ、多くの貧しい物乞いがそこに座って、宮に入る人たちに施しを求めていました。聖霊様はペテロに「立ち止まれ、ある人を見なさい」と言われます。そこへ生まれつき足の不自由な人が運ばれてきました。彼らは、宮に入る人たちからお金をもらわなければ生活できないような状況でした。人々が美しい門と呼んでいる門の前には、物乞いの人であふれていました。私たちが見ているか見ていないかその世界の中で、美しい門はあるけれど、現実には美しい世界がありません。ペテロとヨハネは、物乞いに対して「私たちを見なさい」と言いました。施しを受ける人は、当然何かくれるんだろうという期待をしました。そこでペテロは言いました。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」物乞いの人に向かって、一言目に「金銀はない」ということを言ったのです。そして「あなたが思うような計画をなり遂げる力も私たちにはありません、でもナザレのイエス・キリストが私のうちにいる」と。

美しい教会が与えられた今、私たちは一歩止まって考えなければいけません。私たちがこれから誇るものは何なんだろう。私たちのこの集まりの中で確かにあるものは何なんだろう。私の中にあるものは何なんだろう」と。ペテロとヨハネは、イエス様が奇跡を起こしても、この方についていけば一生困らないな、という程度に思っていました。けれど、イエス様はずっと言われていました。「私はもうすぐ殺される、私の行く道は死の道だ、私は十字架を追い、そして、私についてきたいと思うものには神は十字架を与える。そして、あなたに委ねられた十字架を背負いながら私についてきなさい、それが私の弟子だ」と何度も語りましたが、弟子たちはなかなか理解できませんでした。それを分からせてくださるのが聖霊様なのです。

■ テトスへの手紙

テトスは、神学校卒業したての若き伝道者でした。偉大なリーダーであるパウロが、クレタ島に教会を立て上げました。クレタ島の文化は、ユダヤ人が育った習慣や伝道とは全く違い、非常に荒々しく言葉も強いものでした。パウロは、テトスにリーダーシップを任せます。しかし、テトスがリーダーになってから教会が荒れ、みんなが文句を言い始めま

した。テトスは、パウロに手紙を書きながら、この教会は解散した方がいいという願いをもっていました。テトスにはまだ力も自信もなかったのです。でもパウロがテトスに送った手紙では、「あなたにも聖霊を神は確かに豊かに注いでくださる、それを今信じるべきだ。」と励ましました。パウロは始め、クリスチャンを憎み、殺したり牢獄に入れたりすることが生きがいだった人です。神様はそのパウロを変えて伝道者にしたのです。聖書的に言うと、あなたが願っていたもの、頼りにしていたものがなくなったときに祝福なのです。なぜなら、神様が力強く動かされるからです。

■ イエス・キリストの名によって癒される

ペテロは、生まれつき足の不自由な人を「イエス・キリストの名」によって立ち上がらせました。「彼は立ち上がり、歩き出し、飛び跳ねつつ神様を賛美しながら、宮に入っていった。」まさに奇跡です。この奇跡を信じますか。彼は癒された後、神を礼拝するものに変えられました。癒された後、本当に神を信じる礼拝者になるかならないかで違う意味もたらされます。癒されたら、喉元過ぎれば熱さを忘れるというように、忘れてしまうのが私たちです。そして、もっともっとと、次を求め、今すぐに与えられたものへの感謝を忘れる弱い存在だと示しています。しかし彼は礼拝者となって喜びあふれ、この人たちの中には金も銀もないけれども、イエス・キリストがいるんだということを彼は見たのです。そしてその方を賛美するために宮に入っていったとき、その「美しい門」と呼ばれていたその門は、確かに美しいものとなりました。人々はそれを見、ひとりの礼拝者が生まれたことを通し、今後5000人以上の人々が神様と出会う御業が続くということが、「使徒の働き」に記録されています。

■ 美しい門

この岡山教会にも皆さんの人生にも、美しい門、そして上って行くべき美しい階段がありますが、果たしてそれが美しい門、美しい階段でしょうか。美しい門の前に立ちながらも、私は立てない、という時期があります。そんな時、誰かがイエス・キリストを見上げようという声を信じて立ち上がっていますか。また反対に、私はいつも美しい門に入っていくけれども、聖霊様があの人が今日声をかけなさい、あの人を赦しなさい、あの人を弱さを理解するように聖霊に求めなさい、と言われてる声に聴き従いながら、ともに美しい門に入り、天を見上げて人生を歩んでいくのか。

聖書にも、奇跡を見ても心を動かさない人が出てきます。ペテロとヨハネをとらえて、厳しく戒める人が出てきます。宮の祭司長たちは、奇跡を奇跡とも感じませんでした。祭司長たちは宮のリーダーでした。しかし形だけで心には何も感動もなく、自分の名声を守ることだけに凝り固まってしまい、神の業さえも喜べないようになってしまったのです。生まれつき足の不自由な人が立ち上がり、主を賛美し始めたのに、「何の権威によって誰の名によってあんなことをしたのか」と言ったのです。ペテロは祭司長たちに向かい、聖霊に満たされて堂々と、ナザレ人イエス・キリストの名によって霊によって彼は回復されたということを宣言します。「この方以外には誰によっても救いはありません。天の下でこの御名のおかげに私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」私の人生の基は、私のために死なれて私を生かす方、そしてその方のみ声に聴き従っていけば、必要なものはすべて準備すると約束してくださっている、だから私はその方を喜び、誉め歌う、と。ペテロとヨハネは無学で学歴も金銀もありませんでした。しかし彼らの中には確かにイエス様が生きていました。

■ さいごに

みなさんの門は美しい門です。美しい道も用意されています。私たちに見えないけれど、祈って主のみ言葉を聴く時に聖霊様がどのようにしなさい、あなたの中にあるイエス様がおっしゃっていることを実践し始めた時に、皆さんの人生に神の業が起こり、奇跡が起こり、美しい門をだれかと入りながら神を賛美する美しい礼拝の人生を歩まれることを信じます。

(要約者: 浅野 恵子)

(2023年6月25日)